

「絆・希望 二中のわれら」掲げ

第二中学校創立70周年式典

第二中学校創立70周年記念式典が10月27日、今年2月に落成した同校体育館で開催された。



「ふるさと」の全体合唱

昭和22年、千葉郡津田沼町立津田沼中学校が創立され、翌年に泉町に移転。33年には円形校舎が完成し、現在地に移転。36年には体育館が建てられた。

長い歴史の中でも、野球部は昭和58年に全国大会準優勝、平成16年に全国制覇を遂げ、吹奏楽部は全日本マーチングコンテストにおいて3年連続で金賞に輝いている。1万8633名が巣立ち、スポーツ庁の鈴木大地長官、東京ヤクルトスワローズの小川淳司監督、千葉ロッテマリーンズの福浦和也選手らを輩出した。

式典で実行委員会の熊倉一夫実行委員長は畑地を提供し、植樹した地域の人たちに感謝を述べ、「実行委員会では『絆・希望 二中のわれら』をスローガンに記念事業などの準備をしまして、さらには発

たが、多くの支援をいただき御礼します。明日からは80周年、100周年に向けて歩み出します。これからの歴史を作るのは在籍する生徒ですが『絆』の言葉の通り、結束を強固にして歴史を刻んでもらいたい」と挨拶。

高橋孝志校長は「円形校舎が完成し、開校式を行ったのが60年前のきょうのことでした。一日でも早く立派な環境にとP.T.A、地域の人が協力し、その代表が移植された『椎の木』です。学校らしいたたずまいとなるにはさらに10年が必要でした。この歴史から、多くの尽力と支援への感謝の気持ちを、生徒はよいい二中を作り上げると思う。椎の木はいまなお温かく見守り、無言の教えを与えています。一人ひとりの『想い』の詰まった二中をいつまでも大切な『ふるさと』として、さらに発展させます」と誓った。

第2部では生徒を代表して岳井通司さんが「伝統を受け継ぐことは、昔ながらの良さを認めながら新しい要素を加えること」と思い、70周年は転機になります。時間のつなぎりでは、歴代の卒業生の御蔭で楽しい学校生活、体育祭で盛り上がるのができました。過去の誰かの努力が未来の誰かの力になることがある。いまのがんばりが、何十年も先の後輩の役に立つならそれがどれほどいいことはない。これからも時間がつながることを願います」と伝統と継承について述べた。

体育祭で活躍した3年生応援団が「未来の二中」へのエールを力一杯贈り、全大会出場の吹奏楽部による記念演奏が出席者を喜ばせた。タイトル「二中の過去・現在・未来」の70周年記念ビデオ映像によって刻まれた歴史と学校の様子が紹介され、会場全員による想いを込めた「ふるさと」の合唱が大きく響いた。

「秋津まつり」が10月6日と7日、秋津小学校を中心の開かれた。恒例のまつりも38回目を迎え、前夜祭、本まつりとも賑わった。サブテーマは「みんなのふるさと みんなの秋津」とされ、秋津まつり中央実行委員会の山本健司委員長は「成長した子供たちが親元を離れても、秋津まつりには孫と一緒に戻ってきて、家族で楽しんでほしい」と話した。

「ロックソーラン節」を披露した。秋津幼稚園の園児は「ドレミファアナラシド」

子供みこし 元気に担ぐ

ふるさとテーマに 秋津まつり

「秋津まつり」が10月6日と7日、秋津小学校を中心の開かれた。恒例のまつりも38回目を迎え、前夜祭、本まつりとも賑わった。サブテーマは「みんなのふるさと みんなの秋津」とされ、秋津まつり中央実行委員会の山本健司委員長は「成長した子供たちが親元を離れても、秋津まつりには孫と一緒に戻ってきて、家族で楽しんでほしい」と話した。

「秋津まつり」が10月6日と7日、秋津小学校を中心の開かれた。恒例のまつりも38回目を迎え、前夜祭、本まつりとも賑わった。サブテーマは「みんなのふるさと みんなの秋津」とされ、秋津まつり中央実行委員会の山本健司委員長は「成長した子供たちが親元を離れても、秋津まつりには孫と一緒に戻ってきて、家族で楽しんでほしい」と話した。

基本講習に約100人参加

空手ジュニア育成

空手とは東京オリンピックの実施競技になり、空手道に励む若者たちの意欲は高まっている。習志野市空手道連盟では、これからの活躍が期待されるジュニア選手を育成しようと、講習会を重ねている。



元気に子どもみこしを担ぐ秋津小学校の児童

習志野市体育協会のジュニア育成事業「空手道基本・組手講習会」が今夏も千葉工業大学・茜浜運動施設の武道館で開かれた。3回目となる講習会には9団体が参加し、幼児、小学生、中学生、一般の94名が集まった。習志野市空手道連盟の根本功会長をはじめ、各道場の先生が気合いの入った指導を行い、選手たちは突き、蹴りの基本、組手の技術向上に努めた。組手稽古では、小学生も大学生を相手に、高い位置での回し蹴りを決めるなど、普段の鍛錬の成果を見



組手の稽古

樹木医と歩き木を知る

大久保公民館まちづくり講座

大久保公民館地区学習圏会議「大久保ネットワーク」主催のまちづくり講座も開かれた。習志野市環境審査委員会の委員を務め、座長「樹木医と歩くハミングロード」が9月26日と10月3日に開かれた。

樹木医の中村元英氏による樹木についての講義とハミングロードや森林公園などを巡るフィールドワークで、参加者は地域に生える木々について学んだ。中村先生は平成3年に樹木医制度が生まれるのを知って、樹木医となった。「習志野市名木百選」の選定者の一人であり、市内の樹木の病害防除や危険な老木へのア

が罹るサクラテングス病など伝染病や中心部が空洞になると生えるベッコウタケやコフキタケの存在、十分に根を張れないために伸び切れない樹木の様子について触れた。

2日目は美りの秋にあふしく、実のなる木を中心に観察しようとスタート。台風によって倒れた公民館横のサクラを木製の小槌を使って叩き、空洞化を音で確かめた後、参加者は歩を進めた。ハミングロードの歩道にはプラタナス、ハナミズキ、マテバシイ、カツラなど400本以上の樹木があり、調査された木には番号が記されている。通りの垣根や庭の木々からは秋の気配が感じられ、ウオー

キングと樹木が好きという男性は「金木犀の香りに自然の移り変わりを感じます」と話していた。道中では、塩害の影響を受ける植物と受けない植物の違い、隣の樹木とせめぎ合い、縁石を押しつける成長する街路樹のたくましさ、三角公園では制約のない土地で樹木が伸び伸びと育つことを実地で学んだ。

森林公園では修復されたフジのツルの見事に感嘆の声が上がった。エノキ、ケヤキや池の畔のシダレヤナギを眺め、水鳥公園に向かった。菊田神社の境内裏手ではサカキとヒサカキの違いが説明され、キノコの生えている様子に参加者は植

物の生命力を感じた。最終到着地は習志野市役所。大きく枝を伸ばしたタブノキの下、中村先生は「歩く時の下、中村先生は『歩く時には樹木を気にして下さい』と話した。

習志野市あじさいクラブ連合会主催の第35回「高齢者スポーツ大会」が10月4日、袖ヶ浦運動公園で開かれた。

あじさいクラブ連合会では、高齢者が長寿社会をいきいきと過ごせるように様々な行事を催し、スポーツ大会は健康づくりにともに仲間との親睦に役立っている。参加した各地区のクラブは白組、赤組、青組、ピンク組にわかれ、ボールを手渡りリレーする「ボール送り」や「スプーンレース」などで和やかに競った。

午後のアトラクションでは賑やかに炭坑節などが踊られたが、台風接近の影響もあってその後は雨模様と

健康づくり、仲間と親睦

高齢者スポーツ大会

習志野市あじさいクラブ連合会主催の第35回「高齢者スポーツ大会」が10月4日、袖ヶ浦運動公園で開かれた。

あじさいクラブ連合会では、高齢者が長寿社会をいきいきと過ごせるように様々な行事を催し、スポーツ大会は健康づくりにともに仲間との親睦に役立っている。参加した各地区のクラブは白組、赤組、青組、ピンク組にわかれ、ボールを手渡りリレーする「ボール送り」や「スプーンレース」などで和やかに競った。

午後のアトラクションでは賑やかに炭坑節などが踊られたが、台風接近の影響もあってその後は雨模様と

命の大切さテーマに体験会

青少年補導委員連絡協議会



葛西臨海公園で生き物と触れ合った小学生たち

習志野市青少年補導委員連絡協議会では、青少年センター、地域・学校など協力しながら、安全で安心な社会を築き、子供たちの健全な成長を見守る活動をしている。

今夏には「生命から見た命の大切さ」をテーマに、2回目となる小学生バス体験学習会を開き、小学生26名が日本科学未来館、葛西臨海公園を訪れ、海の生き物との触れ合いを通じて、

命の大切さを学んだ。体験会は東京広域防災センターで地震体験を行うなどした。昨年の第1回に続く。葛西臨海公園では、湿地の生態系と重要性を啓発し、生き物観察会などを行う千葉ウエットランドガイドの協力で、浅瀬に棲む生き物を観察し、カニや貝などの特徴や生態について学んだ。素足の子供たちは、勢いよく水の中に入り、笑顔一杯に海の生き物と触れ合った。



森林公園のフジについて説明する中村先生。藤崎のシンボルともいえるフジの木は、腐朽部を切削し、殺菌癒合剤を塗布するなどの治療が施され太いツルを保っている



フラフープをくぐり、水風船を拾って的に当てる「くぐって、当てて!!」

命の大切さを学んだ。体験会は東京広域防災センターで地震体験を行うなどした。昨年の第1回に続く。葛西臨海公園では、湿地の生態系と重要性を啓発し、生き物観察会などを行う千葉ウエットランドガイドの協力で、浅瀬に棲む生き物を観察し、カニや貝などの特徴や生態について学んだ。素足の子供たちは、勢いよく水の中に入り、笑顔一杯に海の生き物と触れ合った。

命の大切さを学んだ。体験会は東京広域防災センターで地震体験を行うなどした。昨年の第1回に続く。葛西臨海公園では、湿地の生態系と重要性を啓発し、生き物観察会などを行う千葉ウエットランドガイドの協力で、浅瀬に棲む生き物を観察し、カニや貝などの特徴や生態について学んだ。素足の子供たちは、勢いよく水の中に入り、笑顔一杯に海の生き物と触れ合った。